

に貯湯槽もあり、熱を受給する側に大きな迷惑を掛けないと思います。

再質問 稼働するとなった場合、今の原料製造施設規模は間に合いますか。

森林総合産業推進課長 原料の貯木場ストックヤードについては広い方が良いですが、仮に原木を生のまま持つてきて、含水率を下げるために3か月から半年程度置いてと考えると、今の状況では大体約2ha程度の面積があれば原料をストックできると考えます。

再質問 製造した原料を置くストックヤードはスペース的にどうなのですか。

森林総合産業推進課長 含水率を下げて、木屑にして直接熱電併給施設に投入しますので、木屑の燃料用チップのストックヤードは必要がないと思います。詳細はこれから検討します。

再質問 仮に稼働した場合に、先ほど言ったような諸問

題が起きないように、十分熟議を重ね、町内林産業界の同意、町民の理解を得て、それなら是非やってみようというのではないかと答えを見出してほしいと思います。

町長 原料確保は、精度を高めていかないと計画実行ができていかないと考えており、町内だけではなく町外にも、担保できるような調査をしっかりとやります。さらに、2万tだけではなくて、余裕のある確保が必要と見ております。今後調査研究を進めます。

再質問 事業参画企業等について、企業は町内限定なのか、それとも町外企業なのか伺いたい。

町長 町内の企業をベースに考え、町内で事業者が見出せない場合は、次に町外へ求めていかなければならない。

再質問 現状、1万t程度の原料の確保が見込める状況ですが、この調達が不可能な場合は町外企業に協力を求め

ていくということですか。

町長 1万tが今町内事業者の中で用意できるということですが、計画されている必要量は2万tぐらいで、1万t差し引くと残り1万t不足します。そういう意味では、町外事業者に求めていくことになると思います。

再質問 町内事業者とどの程度の話し合いを行っていき

ますか。

森林総合産業推進課長 町内11社の事業体には2回ほど町民の方も含めて説明会を開催。具体的集められる事業体については2回ほどその原料を集めるための準備会も含めて、議論をしている。

再質問 まだ2回程度という

ことですが、数多い会議をし議論を深めてほしい。もし、町内事業者が駄目で、町外事業者となった場合に答えられる範囲で結構ですが、町外事業者でこの事業体というのがわかっているのでしょうか。

再質問 前向きに調査は進

めてほしい。町民も関心をもっていると思いますので慎重に取り進めてほしい。新たな自然エネルギーの発について、太陽光エネルギー、美桑でヒートポンプ、一橋でバイオガスパラントが稼働していますが、雪氷熱利用した考えも必要ではないか

森林総合産業推進課長 現在、町内だけではなかなか原料を集めることができないと判断していますが、その中で町外の事業者も入っていた

だし、一つの企業体をつくって原料を確保することを目指したいと考えています。町外の事業者名前は差控えますが、何かお話しなどしている事業体もあります。

再質問 熱電併給施設が稼働した場合に、町内の雇用はどの程度見込めますか。

森林総合産業推進課長 熱電併給施設を動かすには、約10名程度と考え、原料を集める事業体、そこに携わる雇用の確保も生まれると考えます。

再質問 道内でも新たなエネルギーを利用した電力の発

発がこれから進んでくると思

い、こういうことも踏まえて、熱電併給の関係もそうですが、是非、情報を取り入れて今後とも慎重に進めてほしいと思

います。今進めている熱電併給事業について、十分調査をした上で、原料の確保も含め、是非十分周りの情勢も勘案し

て、正しい判断を願います。

と思います。

町長 道内でも雪氷を使って運用をしているところがあ

ります。設備投資、利用期間、維持費など研究することが必要かどうか調べたい。

再質問 計画している新たな事業もあり、予冷施設とか食材を保存などの可能性を含めて調査を進めてほしい。

ヒートポンプは、あと数箇所予定していると聞いている

が。

町長 現在、建設中のまち

おこしセンターで整備して

ます。